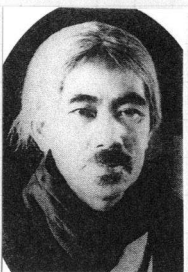


松岡靜雄 しずお 言語學者、民族學者。明治十一年二月二十九日兵庫縣生れ、昭和十一年五月二十三日歿（八七—一九三三）。號筆名ミヤコウリヤ（舎）、伯勞子、神樂舎、神樂舎吏、隈部征夫等。儒者松岡操の七男。歌人井上通泰、民俗學者柳田國男は兄、日本畫家松岡映丘は弟。明治二十八年海軍少尉任官、日露戦争に従軍。第一次世界大戦中、南洋諸島軍政署長を務めた。のち日蘭交通調査會を創設し、大佐で退官後は學問に専心。

著書に、フロイン・メーヌ著『瓜哇史』（譯補、大正十二年十一月五日岩波書店）、『チヤモロ語の研究』（大正十五年十月十二日郷土研究社『爐邊叢書』）、『播磨風土記物語』（昭和二年十月一日刀江書院）、『常陸風土記物語』（昭和二年四月十五日刀江書院）、『民族學』、東歌と防人歌『東歌と防人歌』（昭和二年五月二十五日大岡山書店）、『中央ヨーロッパ語の研究』（昭和二年九月二十日郷土研究社）、『作歌のついで』（昭和五年七月二十日新興學會出版部）、『萬葉集考』（第一編、昭和九年六月二十二日章華社）、『國體明徴上の考察（現、神觀念）』（昭和十一年六月十日時事新報社）、『新編日本古詩辭典』（昭和十一年十一月一日刀江書院）、『神樂舎歌語』（松岡初子編、昭和十二年二月十八日書物展埜社）、

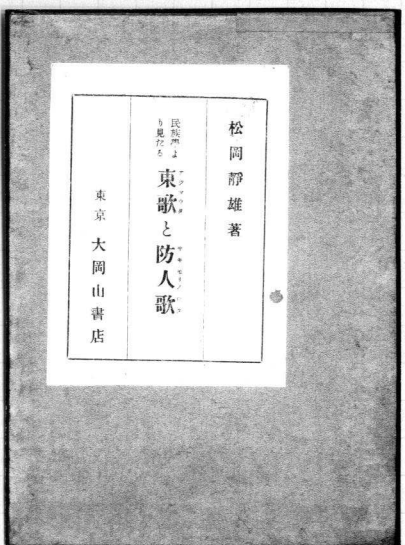
『太平洋民族誌』（昭和十六年七月二十一日岩波書店）、『ミンクロネ



シヤ民族誌

（昭和十八年

一月二十日岩



波書活)、『南洋の秘密』(主村信吉校勘、昭和二十一年一月、千
養徳社)等。『太平洋民族學の開創海軍大佐松岡壽雄』(小西千比古
編、昭和十八年五月、二十五年南洋經濟研究所出版部「南洋資料」)に
ある。